

ウナギの生活史

- 1、みんなの身近にある。そして、食べているウナギはたいへん不思議な生き物で魚の中では深海魚(200m以上の深い海で生活している魚)に属しています。ということで、グアム島の西の海まで3,000kmの旅をして、昼はサメやマグロなどの敵をさけ、800m位深い海を泳ぎ、夜は200m位まで温かい浅い層に上がってきて、おなかの中を発達させて、西マリアナ海嶺という海底山脈の南の端で5月から7月の新月の夜にオスとメスが水深200m位にたくさん集まり、一斉に産卵します。産卵は2回から3回続けて産卵します。産卵が終わると息絶えてマリアナの深い海に沈んでいきます。
- 2、卵は150m前後の水深を漂って、大きさは1.6mm位、1.5日でふ化します。
- 3、ふ化したウナギの赤ちゃんはプレプトセファルスとなり、一週間かけて体長8mm前後に成長します。
- 4、成長してやがて体の幅が大きくなって、透明なヤナギの葉っぱのようなレプトセファルスになります。
- 5、そして、4、5ヶ月成長を続けて、体長が60mmになると、体の形が大きく変わって、シラスウナギになります。シラスウナギは親とほぼ同じ円筒形の体つきで透明です。そして、海流から降りて河口に集り、体をならしながら河口の奥深くまで入っていきます。私たちが食べている養殖ウナギはこの時期のシラスウナギをとって、養殖池の中でたっぷりエサを与えて育てたものです。
- 6、シラスウナギは川や湖の中で餌を食べ始めるとやがて体に黒い色素が発達してきてクロコと呼ばれる段階になります。
- 7、クロコはやがて一ヶ所に住み着いて本格的に成長します。この時期のウナギは、背中が黄緑から深緑でお腹が黄みがかかった白です。ウナギは様々な塩分濃度の環境でも暮らしていける魚です。
- 8、川や河口で十分成長すると黄ウナギは銀ウナギになります。体全体が黒っぽくなり、金属的な光沢をもっています。目とムナビレが大きくなり、浮き袋が発達します。下るタイミングは秋が深まり、気温が下がるのと大雨の影響で川の水が増えると海に出ます。この時、オスは5才前後で45cm位、メスは7才前後で60cm位です。